



**高倉地域づくりの会 事務局長
下山 智久さん**（上高倉）

4 町内会で構成する高倉地域では、町内会長や民生委員などを中心に、平成23年に高倉自治協議会を作り、子どもの数の減少など地域の課題解決に取り組んできた。活動をより充実させていくため、令和2年6月、協議会を解散し、新たに高倉地域づくりの会を立ち上げ、現在約50人が活動する。



▲耕作放棄地の課題解決に向け、高校生と一緒に活動する「耕せ IMO プロジェクト」



▲各部会の進捗状況などを確認する事務局会議の様子



新たな会を立ち上げた理由は？

前身の協議会は、町内会長など役職をあてがわれた住民を中心に運営してきました。さまざまな事業を行い、認知度が上がった一方、「活動する人に任期があり、継続性が弱い」「アイデアは出ても個々が忙しく実現に至らない」「住民の主体的な参加につながっていない」などの課題が出てきました。市の助成制度が変わったことを機に、「自分たちのために、自分たちが動く」地域づくりの原点に立ち返ることにしました。

新たに始めたことは？

地域の皆さんに会の目的がはっきりと伝わるよう、「高倉地域づくりの会」に名称を変えました。また、「自分ができると地域を良くしたい」と集まった住民ボランティア約30人が新たに加わりました。住民アンケートをもとに、地域の課題として要望の高い「子育て魅力・地域の絆・安全対策・地域振興」の4つの部会を作り、活動していくことにしました。

現在の活動と今後の意気込みは？

現在、子どもたち自身が地域のことを考え行動する「子ども会議」、高齢者の通いの場作りの支援などを行っています。要望の高い高齢者の移動手段は、集落の密集具合や地形など、高倉地域の中でも場所によって異なる特徴を踏まえながら考えていきたいです。また、イノシシなどの対策に、人の力だけでなく、情報通信機器を利用する研究を始めました。この方法を活用し、かつて地域の人が私費で築き、今でも地域の農業を支える近平用水などの大切な資産を、人の力がないと維持できない負の遺産でなく、豊かな生活を与えてくれる恵みの遺産として残していきたいと思っています。

「住んでよし、行ってみたい高倉」を合い言葉に、参加者の輪を広げ、今だけでなく、将来につながる地域づくりについて、みんなが考え、行動する場にしていきたいです。

この文章を書いている現在は、梅雨が明けない中、全国の一日あたりの新型「コロナウイルス」新規感染者が6百人を越えました。自分は感染を恐れず、迷うことなく避難できるだろうか…。マスク、消毒液、体温計など、持ち出し品を改めて確認し、避難先の選択肢を増やすなど、今から準備したいと思います。(三)

表紙で紹介した学校給食版モナコ料理のレシピを市ホームページで公開しています。子どもが食べやすいように、また、アレルギーのことも配慮したレシピです。盛り付けを工夫すると、雰囲気も変わり、さらに楽しめますよ。いろいろと先が見えない状況ですが、せつかくできた縁。大切にしたいですね。(二)

花火の撮影に初めて挑戦しました。先輩とは別々の場所です。タンバイ。ここから先はアドバイスはもらえないと、不安の中迎えた本番でしたが、いざ花火が始まると夢中でシャッターを切っていました。大成功！と思える1枚を撮ることができて一安心。来年は花火を楽しむ余裕を持って撮影したいです。(一)

